

やまと得々ミニ情報

第70号 2002年 5月1日

大和木材株式会社

〒891-1104 日置郡郡山町油須木 1299-1 番地

Tel 099-245-7048 Fax 099-245-7058

URL ; <http://www.synapse.ne.jp/~yamato-kk/>

Eメール ; yamato-kk@po.synapse.ne.jp

「構造リフォーム」って 知っていますか？

小泉政権になって1年が過ぎ、空前の支持率でスタートした小泉人気も、急落し、ここにきて経済政策に批判がはじめています。痛みを伴った経済政策も、中堅建設業の倒産やバブル期にできた第3セクターの施設などの廃業だけで、金融関係の不良債務は増える一方です。この先どうなるか全く見通しが立ちません。景気の底を打ったとは言われますが、銀行の貸し渋りは相変わらずで、住宅着工は低迷を続けております。そのうえ、今までは地場の大工さんたちの市場であった増改築に大手ハウスメーカーや他業種からの進出も見られるようになり、地域の中小工務店さんはますます仕事が厳しくなってきました。

ところで、「構造リフォーム」て、聞いたことがありますか？ 先日、既存建物耐震補強研究会代表の保坂氏にお話を伺う機会があり、その著書、「強い家づくり」を、読ませて頂きました。保坂氏は東京で建設会社を経営されながら、大学や、仲間の方々と木造住宅の耐震補強について、研究を重ね、実地で確認しながら、独自の金物などを開発されています。しかも、その成果は惜しみなくオープンにされ、社会資本としての木造住宅の普及に努めておられるそうです。その理想は、在来木造住宅の活性化が日本の森林活性化につながり、ひいては環境保全につながると考えておられるようです。

阪神大震災から7年が過ぎた今、東海地震や、関東地震がささやかれ、テレビなどで、耐震補強の宣伝が目につきます。木造を金物でガチガチに固めているようですが、本当にそれで耐震補強になっているのでしょうか？ 著者はリフォームするときには、目的を明確にし、十分に話し合い、目先の利便性のみにとらわれず、リフォームの長所・短所（資金計画を含め）を理解したうえで、必ず構造のチェックもしてほしいと言われます。土台の腐朽や、柱や桁、筋交いの接合部の安全性（強度の確保）、そして壁の量と配置をしっかりと確認したうえで、増改築を行わなければ、いくら金物を使ってもその効果は期待できないと強調されています。すなわち、腐った木材の上からいくら金物で補強しても意味は無いし、さらに、壁の外からの補強の場合、外壁に割れが生じたりして、そこから水が染込み中の木材を腐らせることもあるといわれます。また、増築の場合は壁のバランスを考えないと、その接合部に応力が集中し被害を生じ易いと警告されています。

また、既存のZ金物などを使うときに専用のZN釘（亜鉛メッキ釘）を使わないと、本来の強度は期待できないにもかかわらず、金物によっては釘穴が小さく普通のN釘しか使えないようなおかしい物もある。さらに、筋交いに9cm角を使うと3倍の壁倍率になることになっているが、3倍の金物は無い、どのように留めているのか、今後真剣に検討する必要もあるそうです。

【情報】

「強い家づくり」 保坂 貴司 著 定価 1,300円
新築、耐震診断と耐震補強、リフォーム
一般消費者向けの本で読みやすいです。
申込先 暮らしの手帳 電話 03-3701-6861

【定休日】 5月は4, 5, 11, 12, 18, 19, 25, 26日となります
6月は2, 8, 9, 15, 16, 22, 23, 30日となります
ご協力をお願いします。

(お問い合わせは、お客様サービス係の東野まで)

